

⑤ エリアス・サンバー 著  
『パレスチナ ～動乱の100年』

(創元社)

パレスチナ問題は、過去に幾度か和平の話し合いが持たれながらその努力は結実せず、今日なお報復が報復を呼ぶ悲劇が繰り返されています。パレスチナ問題の解決は21世紀を生きる人類に突きつけられた課題の一つでもありましょう。

本書は多数の写真とイラストを駆使して、パレスチナ人が直面せざるを得なかった不合理と苦難を明らかにするとともに、ユダヤ人迫害の結果として生まれたイスラエル国家の存在をも認め、平和共存のあり方を問いかけています。

228.5-San (T.K.)



⑥ 半藤一利 著  
『この国のことば』

(平凡社)

昔の人々の言葉には、世の中や人生などの様々な事柄を表現したものが数多くあります。古人の言葉というのは現代にも通ずるものです。そういった言葉によって、現代の問題が解決できることもあるかもしれません。

本書には、日本の歴史に名を残している人々の265の名言が、時代で区分して紹介されています。昔の人々の知恵を学べば、きっと日常生活の中で役立つことと思います。

210.04-Han (S.I.)

⑦ 藤本ひとみ 著  
『悪女の物語』

(中央公論新社)

歴史上で悪女と呼ばれる女性は数多くいますが、本書はその中の二人のフランスの姫君の物語です。一人はブルボン王朝のルイ16世とマリー・アントワネットの娘マリー・テレーズ、もう一人はアンリ2世の娘でブルボン王朝の祖アンリ4世の後マルゴ王妃です。彼女たちは、なぜ激動する歴史の流れの中で、翻弄され、悪女と言われるような過激な行動に走っていったのか。

著者はエッセイストで、本書の他にもフランスを中心とした女性史の著書が多数あります。

289.3-Fuj (H.T.)



⑧ 岩波書店編集部 編  
『世界がステージ！  
～国を越えて仕事すること』

(岩波書店)

世界を舞台に働きたい！働けたらいいな、そんな思いを持つ人も多いことでしょう。

音楽、スポーツ、国際職員、日本語教師など様々な分野で日本と日本語の壁を越えて活躍する13人が、仕事の魅力、どうやって今に至ったか、彼らを感じる<日本>、<世界>などを身近な言葉で語っています。

彼らの情熱、国際感覚は、これからどんな仕事をする人にとっても大いに参考になるでしょう。

366.2-Seka (S.N.)